

売れる米づくり技術情報 No. 5

～なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい～

令和6年7月5日
J A え ち ご 中 越
なんかん北営農センター

草丈急伸長、1回目穂肥は必ず生育診断を行い慎重に判断！ 2回目穂肥は後期栄養維持のため、確実に施用！

1. 7月1日現在の水稻生育状況（なんかん北管内調査圃場平均）

- コシヒカリ：草丈/長い、莖数/並、葉数/やや早い、葉色/並
- こしいぶき：草丈/やや長い、莖数/やや少ない、葉数/並、葉色/やや濃い

品種	草丈 (cm)			莖数 (本/m ²)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標
コシヒカリ	61.6	56	55	424	436	480	10.3	9.9	9.7	40.0	37.8	39.0
こしいぶき	61.1	56	52	460	473	550	10.8	10.4	10.5	42.3	40.8	38.0

※コシヒカリ元肥一発体系の場合、葉色(SPAD)指標値は『40.0』となります

7/10 指標値：SPAD 値 36.5＝葉色板 4.6～4.7（この数値の読み替えはコシヒカリ分施・単葉・出穂前 24～21 日のもの）

2. 幼穂形成期・出穂期予想と穂肥施用のめやす（7月1日現在の予測）

- 幼穂形成期・出穂期は平年より3日程度早い予想です(今後の気象により変動することがあります)。

品種	田植日	幼穂形成期	出穂期	穂肥 1回目			穂肥 2回目		
				施用時期	出穂前日数	窒素量(kg/10a)	施用時期	出穂前日数	窒素量(kg/10a)
こしいぶき	5/5～10	6/29	7/22	6/29	23	1.0～1.5	7/8	14	1.0～1.5
こがねもち	5/5～10	7/2	7/26	7/8～11	18～15	1.0～1.5	7/16	10	1.0～1.5
コシヒカリ	5/5	7/7	7/31	7/13～16	18～15	1.0～1.5	7/21	10	1.0～1.5
	5/10	7/9	8/2	7/15～18			7/23		
	5/15	7/11	8/4	7/17～20			7/25		

- 元肥一発肥料を施用していて、出穂前10日で止葉の下葉(第2葉)の葉色が葉色板(カーズール)で4.2～4.3、SPAD値で32～33を下回っている場合、速効性化学窒素肥料で窒素成分1kg/10aを超えない量を追肥してください。

- 3割減・5割減(こだわり米)栽培の化学窒素許容量を超えない量で散布をお願いします。

- 近年は8月の高温予想が常態化しており、追加施用が既に慣行栽培の取組となっていると判断されるため、令和6年から、新潟県が定める地域慣行栽培基準が改正されました。必要に応じて3回目穂肥を施用しましょう。

改正後	化学肥料使用量(窒素成分kg/10a)		
	慣行栽培	こだわり米	3割減々
	7kg	3.5kg	4.9kg

- 有機由来窒素割合によって、化学窒素100%の肥料より施用時期を早める必要があります。

◎裏面に今年の気象での肥料溶出シュミレーションあり

3. 生育は圃場毎に差があるので、必ず生育診断を行って穂肥時期・量を判断しましょう。

- (1) 穂肥1回目：幼穂長を確認

コシヒカリ穂肥
1回目適期

※幼穂長の測り方は、「売れる米づくり技術情報 No. 4」をご確認ください。

幼穂長と出穂前日数の関係

幼穂長(cm)	0.1	0.13	0.2	0.5～1.0	4.0～6.0
出穂前日数	24	23	20	18	12

◎コシヒカリ1回目穂肥施用のめやす

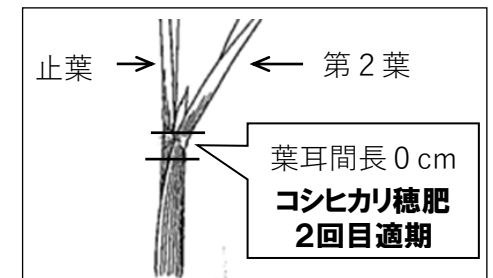
幼穂形成期の生育量 草丈 (cm) × SPAD 値	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
2,500 未満 (2,400 未満)	○△	◎	◎
2,500～2,800 未満 (2,400～2,700 未満)	×	×	◎
2,800 以上 (2,700 以上)	×	×	×△

- ※ ◎：出穂期18日前に基準量を施用。 ○：出穂期15日前に基準量を施用。 ×：施用しない。
- △：直近の気象予報や葉色の推移を考慮し、倒伏が懸念される場合は、遅め、控えめの施用。
- ×△：原則として施用しないが、梅雨明け後に異常高温となった場合には基準量を施用。

- ※ 幼穂形成期の生育量の上段数値は基肥に化学肥料を用いた場合。下段()内は基肥に有機質入り肥料を使用した場合である。

- (2) 穂肥2回目：葉耳間長

- 止葉の葉耳と、その下の葉(第2葉)の葉耳の間隔を確認して、同じ位置にあれば出穂9～10日前です。
- 2回目の穂肥(出穂期10日前頃)は節間の伸長にほとんど影響しないので、後期栄養を維持し、登熟向上と品質低下防止のため確実に施用しましょう。



4. 幼穂形成期以降は浅水の間断かん水から飽水管理に移行しましょう。

※貴重な農業用水です。かけ流しはしない。

5. 斑点米カメムシ対策のため、草刈り・防除の徹底をお願いします。

- 今後も高温傾向が予想され、カメムシの多発に注意が必要な状況です。

6. いもち病・紋枯病防除

- いもち病多発地域や弱い品種作付け圃場等を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。
- 紋枯病が前年多発した圃場は今年も多発しやすくなります。特にこしいぶきは紋枯病に弱いため、発生を確認した場合は早めに防除しましょう。
- 推奨資材：トップジンスタークルフロアブル(いもち病、紋枯病、カメムシ)など

【お問い合わせ先】 なんかん北営農センター米穀課：0256-47-1429

肥料溶出シミュレーション結果

対象肥料：早生スーパー元肥パワフル30

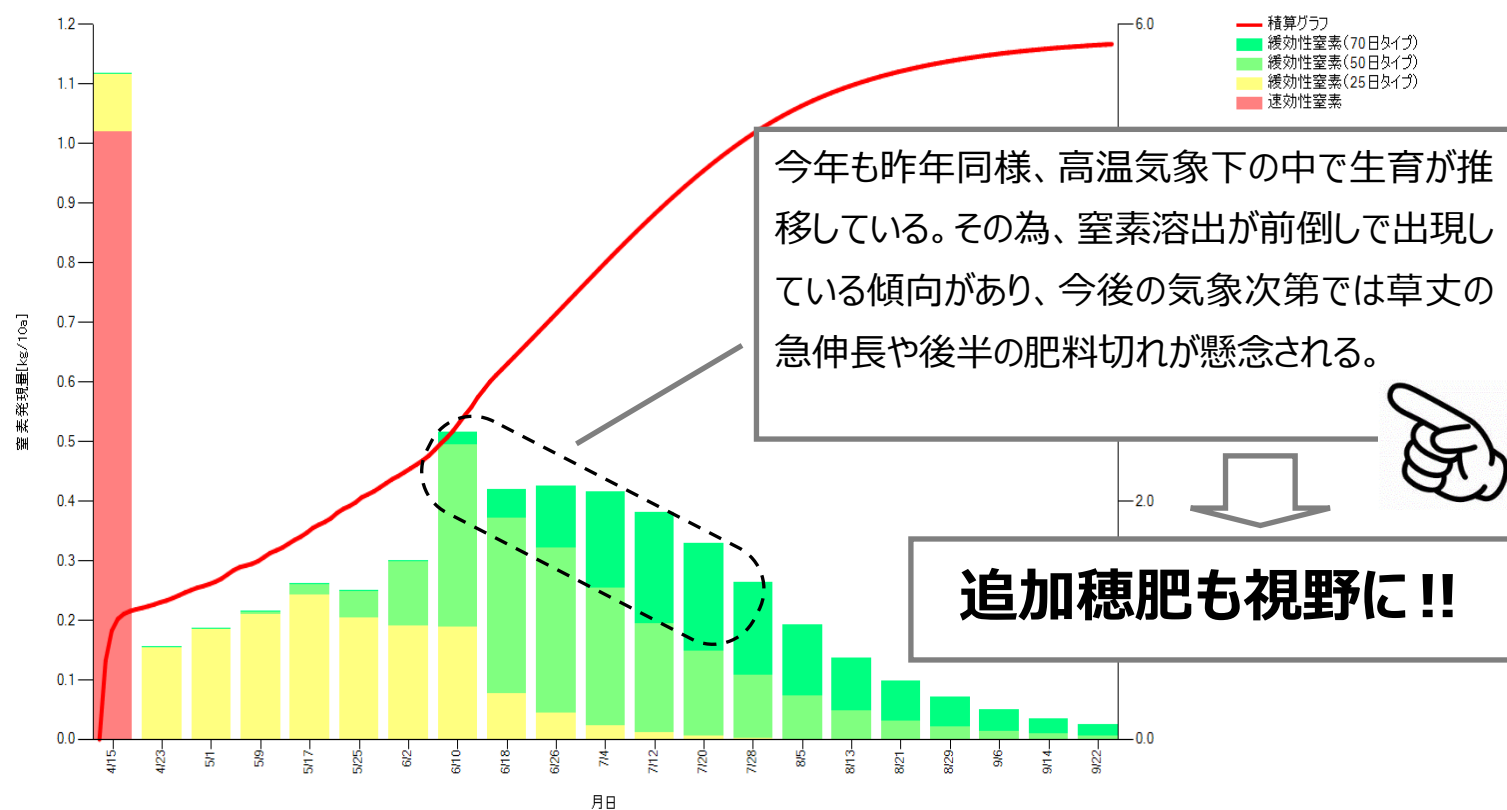
1. 測定条件

2. 窒素施用量

測定値	三条2024 6/19以降は平年値	資材種別	施用日	窒素施用量 (kg/10a)
施肥日	4月15日	緩効性肥料（25日タイプ）	2024/4/15	1.64
推定開始	4月15日	緩効性肥料（50日タイプ）	2024/4/15	1.94
推定終了	9月30日	緩効性肥料（70日タイプ）	2024/4/15	1.40
施肥量	20kg/10a	速効性肥料	2024/4/15	1.02
計				6.00

3. 積算グラフ・期間グラフ

早生スーパー元肥パワフル30



肥料溶出シミュレーション結果

対象肥料：越後の輝き 有機30スーパー元肥

1. 測定条件

2. 窒素施用量

測定値	三条2024 6/19以降は平年値	資材種別	施用日	窒素施用量 (kg/10a)
施肥日	4月15日	緩効性肥料（90日タイプ）	2024/4/15	2.48
推定開始	4月15日	速効性肥料	2024/4/15	1.64
推定終了	9月30日	有機質肥料	2024/4/15	1.88
施肥量	40kg/10a	計		6.00

3. 積算グラフ・期間グラフ

越後の輝き 有機30スーパー元肥

